

## IPFにおける平均肺動脈圧の経時的推移

特発性肺線維症 (Idiopathic pulmonary fibrosis: IPF) は特発性間質性肺炎の一型であり、命に関わる進行性疾患であるとされています。肺高血圧症(肺動脈圧の上昇)は、様々な要因で起こるとされておりますが、IPFを含めた呼吸器疾患に合併することがあります。IPFにおいて肺高血圧症を合併した患者さんは、合併しない患者さんに比べて、予後が悪いことが言われております。

進行した IPF においては、肺動脈圧は経過と共に上昇し、肺高血圧症の合併率は上がることが言われております。しかし、より早期の IPF において、肺動脈圧がどのように推移するか、肺高血圧症が早期の段階でも合併率が増えるのかどうか、明確には分かっておりません。今回、軽症の IPF 症例の方で、1年以上経過したところで肺動脈圧がどのように推移するのかを検討する研究を計画しています。

2007年5月～2013年12月までに当院で診断された IPF 患者さんのうち、右心カテーテル検査を行った患者さんの診療情報を収集して解析を行います。この研究では、集計・解析に際して匿名化して情報を取り扱い、対象者の個人情報を厳重に保護しています。上記に該当する方で、この研究についてのご質問や研究協力の拒否を希望される方がございましたら、お手数ですが公立陶生病院呼吸器・アレルギー疾患内科医師・寺町涼(電話 0561-82-5101)までご連絡いただければ幸いです。

研究協力者: 公立陶生病院 呼吸器・アレルギー疾患内科部長 谷口 博之

研究協力者: 公立陶生病院 呼吸器・アレルギー疾患内科部長 近藤 康博

研究協力者: 公立陶生病院 呼吸器・アレルギー疾患内科医師 寺町 涼